

中学校社会科採点基準

2枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正	答	採点上の注意	配点
1	1	5		6
	2	1		6
	3	3		6
	4	6		6
	5	6		6
	6	5		6
	7	3		6
	8	4		6
	9	3		6
	10	3		6
	11	3		6
	12	3		6
2	1	3		8
	2	4		8
	3	5		8
3	1	3		8
	2	4		8
	3	6		8
4	1	4		8
	2	2		8
	3	1		8
5	1	4		6
	2	3		6

中学校社会科採点基準

2枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答	採点上の注意	配 点
6	1 表中の8世紀の下総国葛飾郡大嶋郷の戸籍は、男女の比率がほぼ同じであるのに対して、10世紀の周防国玖珂郡玖珂郷の戸籍は極端に女性の割合が高い特徴があることが分かる。これは、8世紀後半から9世紀になると農民間の貧富の差が拡大し、農民は様々な手段で負担を逃れようとして、戸籍に兵役・労役・租税を負担する成人男性を登録することを避けて、負担の少ない女性の登録を増やすという偽りの記載（偽籍）が行われたためと考えられる。 また、表中の10世紀の周防国玖珂郡玖珂郷の戸籍には、61歳以上の者が多く20歳以下の者はいないことが分かる。これは、国司のもとで徴税や税の運搬、文書の作成などの実務を担っていた郡司たちの力が衰えたことにより、出生者の記載や死亡者の確認などの正確な戸籍・計帳の作成や班田収授が実施できなくなっていたためであると考えられる。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	8
	2 資料Ⅰから、受領は、より多くの収入が得られる大国の受領への任命を望んでいたことが分かる。また、資料Ⅱは、巨利を得ようとした強欲な受領が郡司や有力農民に暴政を訴えられた例を示したものである。 これらの背景には、9世紀末から10世紀前半にかけて、政府が国司の交替制度を整備し、任国に赴任する国司の最上位者である受領に、大きな権限と責任とを負わせるようにしたことがあると考えられる。このことにより、受領は郡司の任免権を握って彼らを駆使するようになり、自らが率いていた郎党たちを強力に指揮しながら徴税を実現し、自らの収入を確保するとともに国家の財政を支えた。 このように、国内支配を一任された受領は、課税率を高めることなどにより、私財を蓄えることができ、より大きな国の受領になることが利権としてみなされるようになったため、より多くの収入が得られる大国の受領への任命を望む申文が作成されたと考えられる。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	12
7	この生徒は「希少」という言葉の意味やその状態については理解していると思われるが、「希少性」の程度が変化することについて、つまり、人間の欲求（人間が求める量）に対して資源の有限性（実際の量）がどの程度であるかが重要であるという理解は不明である。そこで、例えば、資料Ⅰを用いて、「真水は生活する上で非常に重要であるがその価格は低く、一方で生活にほとんど必要がないと思われるダイヤモンドが高い価格で取引されるのはなぜか」などの発問をして、真水やダイヤモンドの位置付けを説明させる活動を行う。また、「砂漠でどが渇いている人は、ダイヤモンドより真水を欲しがるのではないか」などの追加の発問を行い、この場合の希少性はダイヤモンドより真水が高くなることを分からせることで、希少性は人間が求める量と実際の量との関係で決まることを理解させる。 さらに、資料Ⅱについて、資料Ⅰを用いて考察させることで理解の深まりを確認する。例えば、「なぜ街中と富士山頂で販売される飲料の価格は違うのか」などの問いを設定し、資料Ⅰを基に理由を説明させる活動などを行う。この場合、富士山頂では、商品の量に対して「買いたい」と思う人が多いので、その商品の高い希少性が価格に反映されていること、一方、街中では、商品の量に対して「買いたい」と思う人が少ないので、その商品の希少性は低く、価格が低いことを捉えさせる。これらの指導を通して、私たちの限らない欲求に対して、資源が不足している状態を希少性といい、地球上に存在しているほぼすべてのものは、希少性があるといえることを理解させる。	問いを正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	24